

令和3年度 学校評価報告書

学校番号(小9) 長崎市立(桜町小)学校

1 教育目標

夢や憧れの実現に向け 自ら努力する子どもを育てる
 ～自ら学び 自ら考え 自ら行う～

2 学校経営方針

すべては子どもたちの未来のために
 ～学校・保護者・地域が一致団結し、持続可能な社会の担い手を育成する～

3 重点目標

- 1 すべての子どもたちに基礎基本の定着と、確かな学力の向上をめざす。
- 2 いじめで悩む子ども0（ゼロ）をめざし、早期発見・早期解決に努める。
- 3 すべての子どもたちを運動に親しませ、体力の向上をめざす。
- 4 子どもたち一人一人の教育的ニーズに対応するために、支援体制の充実を図る。
- 5 G I G A スクール構想に対応できる校内体制及び教育課程等を整える。
- 6 各教職員がP D C A サイクルを意識して主体的・効率的に職務に取り組む。
- 7 開かれた学校をめざすとともに、家庭や地域と一層の連携を深める。

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	91	91	96	第1回調査に続き全般に高い評価である。今回も業務改善が進んでいることが結果として表れた。主な要因として、職場の雰囲気良好であること、働き方改革への理解が進み、定着してきたことなどが考えられる。学校が明るく楽しい雰囲気であるという評価は大変喜ばしく、今後も教育目標の具現化に努めたい。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	90	97	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			92	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			96	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	95	93	96	数年来の課題である挨拶については、昨年度までと同じ傾向である。児童と保護者の評価が乖離している。一学期反省を踏まえ、生活指導及び児童会の取組により、校内における挨拶はかなり活性化しているが数値には表れていない。保護者の評価が低いのは、変わらない。校内の実践を肯定的に評価しつつ、校外でも積極的に取り組むよう指導の充実を図りたい。いじめ対策は、かなり高い評価となった。宣言の周知と指導の徹底、校長室前に常設した相談ボックス等の具体策が奏功していると考えられる。平和教育の保護者評価が前回比3ポイント上昇している。5年生の総合的な学習の時間の実践や平和集会等、平和教育の取組が評価されたと考えられる。
		挨拶をよくしている	93	76	92	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	72	80	74	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94	90	96	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	91	90	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	92	96	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	97	98	96	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96	81	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	92	98	100	概ね高評価。とりわけ「特色ある学校づくり」の結果は、桜っ子くんちの充実によるものと考えられる。一方、キャリア教育の教職員評価が低い。キャリアサポートの効果的活用等、特別活動の充実を図ること。さらには他者との関わりを通して自己有用感を育成することが不可欠である。自立の基礎を養い、自己の生き方を考える生活科・総合的な学習の時間の充実が鍵を握る。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	92	96	95	
		家庭学習の習慣が身に付いている	95	88	95	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	90	95	76	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		96				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	97	97	100	「保健・衛生」が高評価を得ている。コロナ対策はもとより、養護教諭を中心とした丁寧な観察・指導・対応が大きな要因と考える。 基本的な生活習慣に関しては、家庭環境により大きな差があり、学校保健委員会の取組に加え、個別の対応が必要。一方、「体力向上」がポイントを下げた。改善へ向け、具体的な取組を一過性に終わらせず、中長期的に継続する必要がある。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	91	87	96	
		体力向上に努めている	87	92	83	
	食育	食に関する教育活動を行っている	90	92	96	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	97	97	100	安全管理については数値的には前回調査とさほど変わらないが、保護者から肯定的な意見が寄せられている。情報提供についてもポイント上昇。HPや学校だより・学級通信の充実、安心安全メールの管理・運営によるところが大きい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	91	87	96	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	87	92	83	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している	90	92	96	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	98	95	96	前回調査同様、高い数値となった。今年度になり、施設設備が順次、改修・整備されていて、数値に現れない点でもかなり整備され、教育環境の充実、働きやすい職場につながっている。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			96	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

昨年度と比べ、全般に肯定的な評価が多くみられる結果となった。特に、心の教育に関する項目では、いじめ防止対策・人権教育・平和教育において、児童・保護者の評価が高まった。「いじめしない宣言」の全校児童への周知徹底及び校長相談ボックスの設置・活用、日々の生活指導の充実が功を奏していると考え。今後も、いじめ防止及びいじめの早期発見解決、だれ一人取り残さない教育に全職員で取り組んでいく。

特筆すべきは、業務改善である。前年比、30ポイント向上した。昨年度から取り組んできた具体的な取組が全職員に浸透した結果である。今年度は、毎日18:00までの退庁が徹底し、全職員が月の超過勤務時間45h以内をクリアすることもできた。コロナ禍の状況を業務改善の転換期としてプラスに捉え、教職員の中に「限られた時間の中で、質の高い教育を」という意識が高まっている。教育環境の評価も5ポイントアップしており、働きやすくやり甲斐のある職場となっている。

課題は、挨拶と体力向上の2点。挨拶は、校内の取組は成果を挙げている一方、地域・保護者の評価が低い。校内の取組を波及させるよう保護者との連携が必要と考える。体力向上については、年間を通した中・長期的な取組を実施する予定である。

6 学校関係者評価

定例の学校運営者会議を実施していないため、学校評価の結果及び考察を送付した。御回答いただいた評価は概ね肯定的なものであった。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

今年度もコロナ禍において、学校として「児童のために何ができるか」という視点で教育活動の推進に努めた。学校関係者や保護者から直接・間接的に肯定的な評価を得られた。特に、コロナ禍において実施が危ぶまれた本校の一大行事である「桜っ子くんち」が検討を重ね、周到な準備を行った上で開催したことが大きく評価された。運動会等、他の行事にしても同様。今後も、この2年間の実績を踏まえ、活動の目的や意義を明確にしながら万全の体制を整えて、充実した教育活動となるよう努めていきたい。また、学校経営方針や様々な取組、児童の様子などについて、より一層周知に努めていくことが重要である。

学校保健委員会やPTA研修会等の場を用いて、家庭教育に関する研修会や講演会を実施したい。いずれにしても、PTAや学校運営関係者会、地域の方々の理解と協力が欠かせない。個々のケースについては、関係諸機関と連携を密にしながら迅速に対応する。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。